

# 久留米市地場企業景況調査レポート(平成18年4月～6月期調査分)

## < 調査目的 >

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

## < 調査対象 >

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

## < 調査要領 >

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

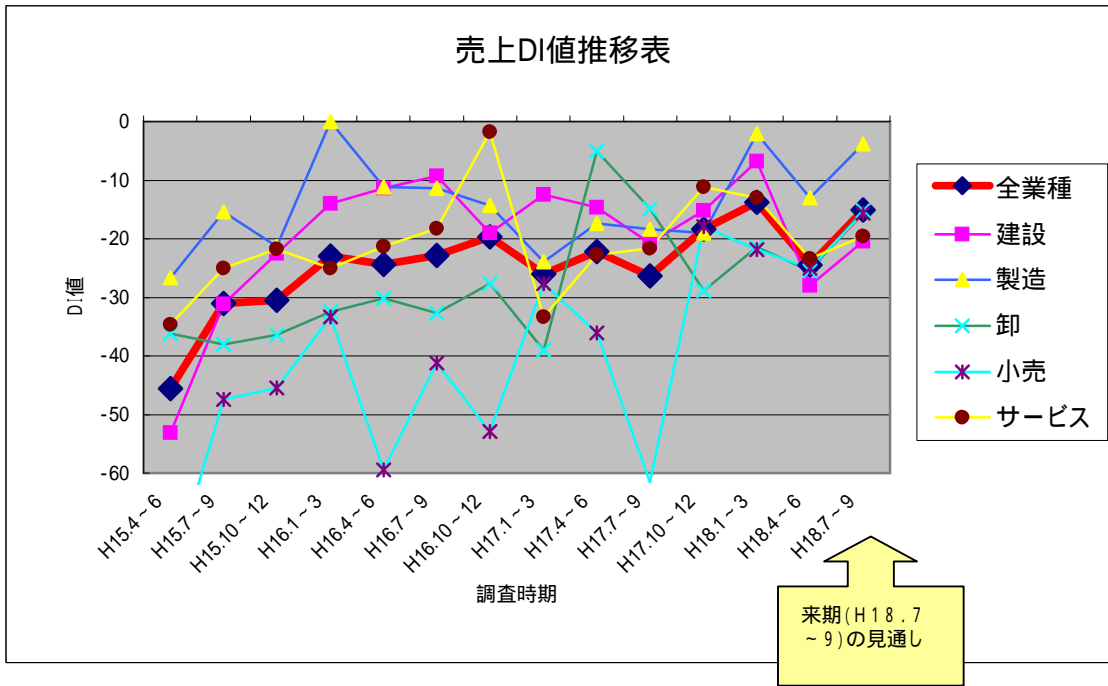
## < DI値とは >

DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

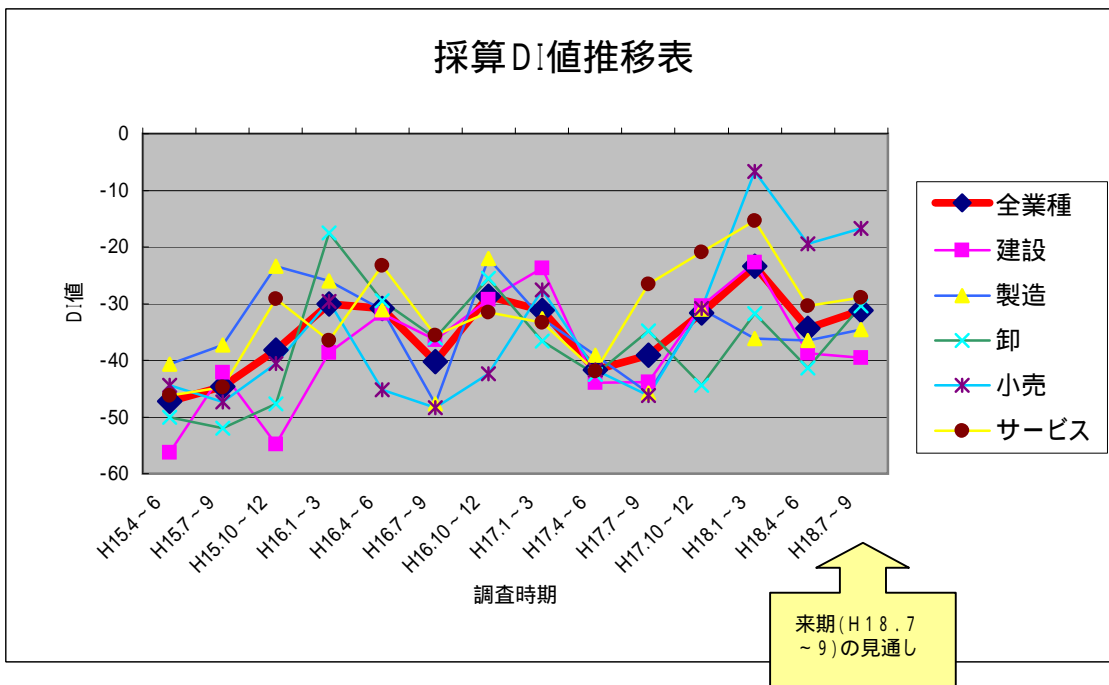
$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

## < 平成18年4月～6月期調査分回収結果 >

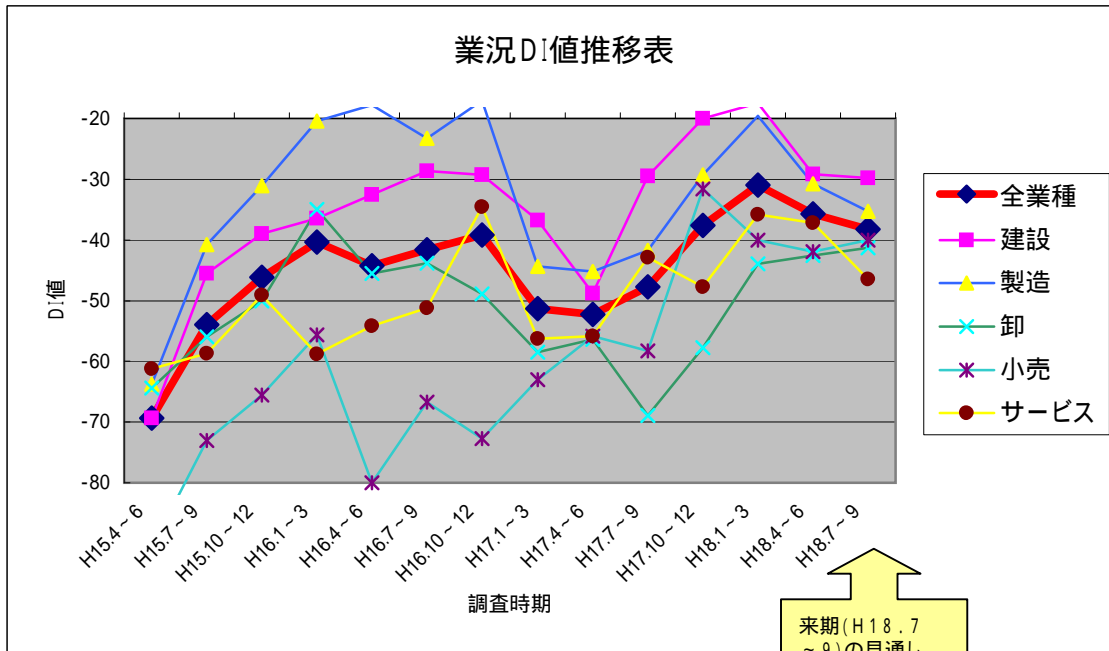
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	230	38.3%
建設業	120	50	41.7%
製造業	120	54	45.0%
卸売業	120	47	39.2%
小売業	120	32	26.7%
サービス業	120	47	39.2%



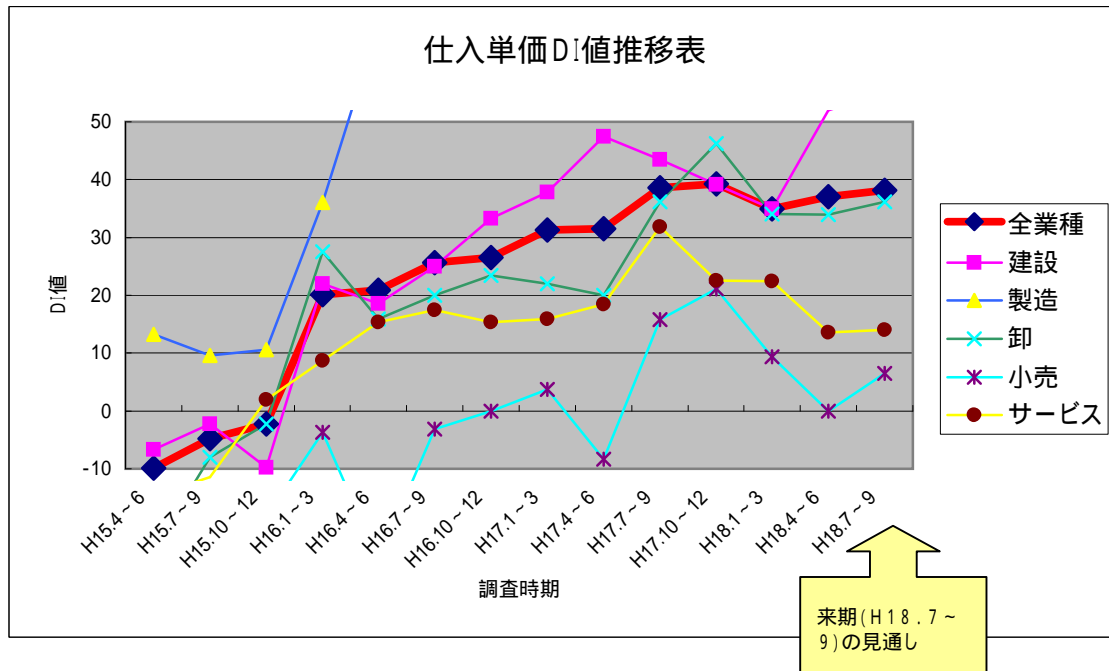
今期(H18.4~6)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は50社(前期比6社減)、「減少した」と回答した企業は106社(前期比20社増)、「横ばいである」と答えた企業は73社(前期比3社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期ぶりに拡大して 24.5となり、前期比で10.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 28.0(前期比21.2P悪化)、製造業 13.0(前期比10.9P悪化)、卸売業 25.5(前期比4.1P悪化)、小売業 25.0(前期比3.1P悪化)、サービス業 23.4(前期比10.4P悪化)となった。来期(H18.7~9)の見通しでは全業種DI値は 15.1と、9.4ポイント改善する見込み。



今期(H18.4~6)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は24社(前期比6社減)、「悪化した」と回答した企業は101社(前期比21社減)、「横ばいである」と答えた企業は99社(前期比5社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は4期ぶりに拡大して 34.4となり、前期比で11.0ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 38.8(前期比16.1P悪化)、製造業 36.5(前期比0.3P悪化)、卸売業 41.3(前期比9.6P悪化)、小売業 19.4(前期比12.7P悪化)、サービス業 30.4(前期比15.0P悪化)となった。来期(H18.7~9)の見通しでは全業種DI値は 31.2と、3.2ポイント改善する見込み。

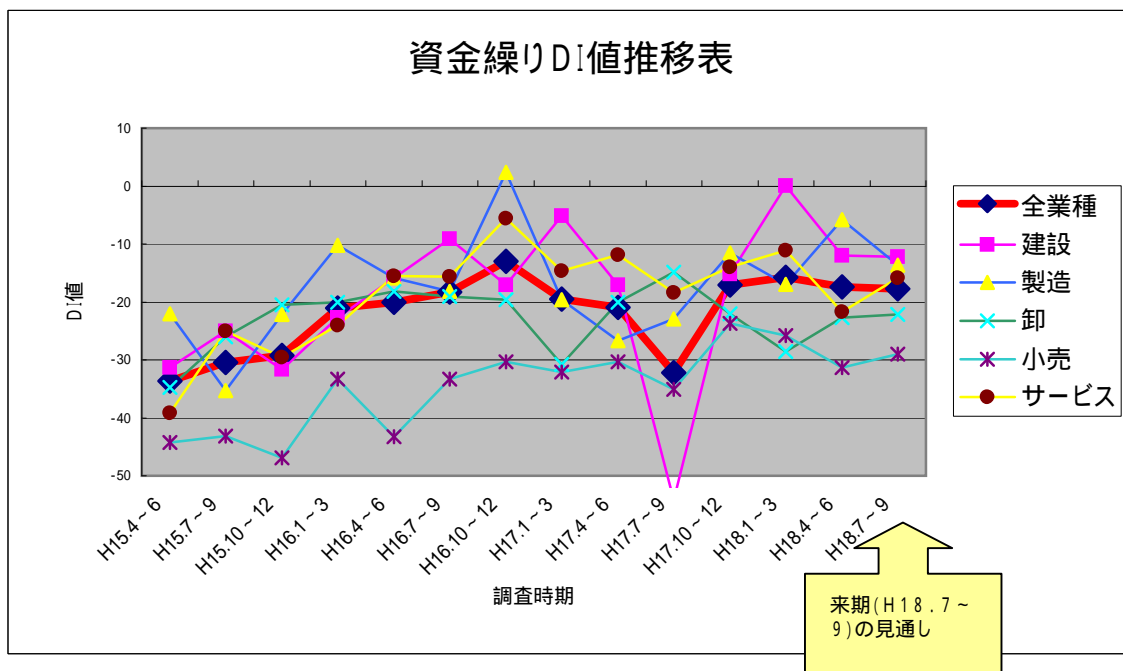


今期(H18.4~6)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は13社(前期比5社減)、「悪化した」と回答した企業は92社(前期比9社増)、「横ばいである」と答えた企業は116社(前期比7社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は4期ぶりに拡大して 35.7となり、前期比で4.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 29.2(前期比11.7P悪化)、製造業 30.8(前期比11.2P悪化)、卸売業 42.6(前期比1.3P改善)、小売業 41.9(前期比1.9P悪化)、サービス業 37.2(前期比1.4P悪化)となった。来期(H18.7~9)の見通しでは全業種DI値は 38.2と、2.5ポイント悪化する見込み。



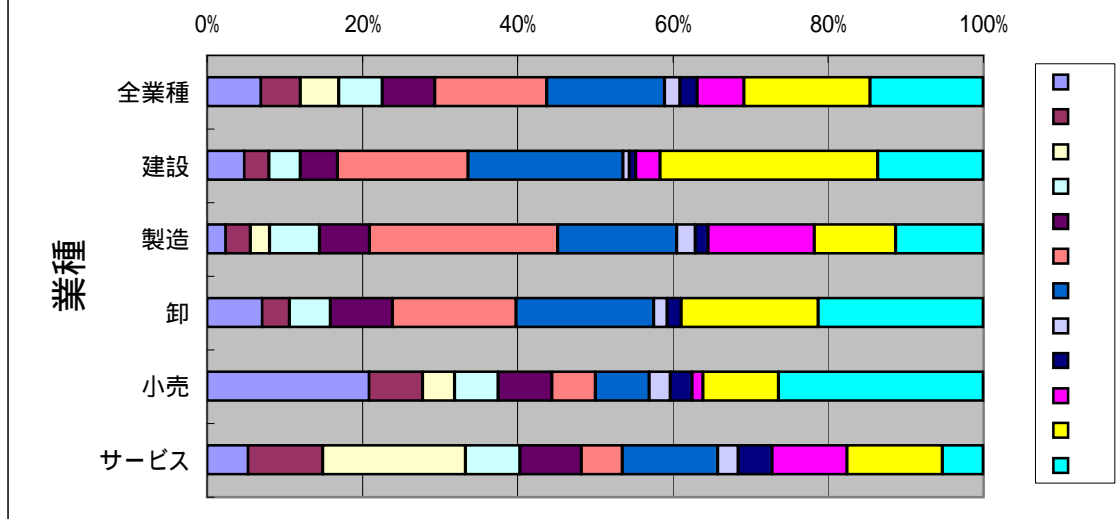
今期(H18.4~6)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は98社(前期比7社増)、「低下した」と回答した企業は14社(前期比3社減)、「横ばいである」と答えた企業は115社(前期比11社増)であった。DI値を見ると、2期ぶりに拡大して37.0となり、前期比で2.1ポイント拡大した。業種別のDI値では、建設業52.0(前期比17.1P増)、製造業66.7(前期比0.7P増)、卸売業34.0(前期比0.1P減)、小売業0.0(前期比9.4P減)、サービス業13.6(前期比8.8P減)となった。来期(H18.7~9)の見通しでは全業種DI値は38.1と、1.1ポイント拡大する見込み。

## 資金繰りDI値推移表



今期(H18.4~6)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は13社(前期比5社減)、「悪化した」と回答した企業は52社(前期比不変)、「横ばいである」と答えた企業は159社(前期比13社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は3期ぶりに悪化して 17.4となり、前期比で1.7ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 12.0(前期比12.0P改善)、製造業 5.8(前期比11.2P改善)、卸売業 22.7(前期比5.9P改善)、小売業 31.3(前期比5.5P悪化)、サービス業 21.7(前期比10.6P悪化)となった。来期(H18.7~9)の見通しでは全業種DI値は 17.7と、0.3ポイント悪化する見込み。

## 経営上の問題点(複数回答可)



大企業の進出による競争の激化 同業者の進出 消費者ニーズへの対応 人件費の増加 人件費以外の経費の増加 仕入単価の上昇 販売価格の低下・上昇難 金利負担の増加 事業資金の借入難 従業員の確保難 需要の停滞 その他 今期(H18.4~6)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(14.4%)」「販売価格の低下・上昇難(15.1%)」「需要の停滞(16.2%)」を指摘する声が多く寄せられている。特に、建設業での「官公需要の停滞(28.0%)」、製造業の「原材料仕入単価の上昇(24.2%)」、小売業の「大企業の進出による競争の激化(20.8%)」、サービス業の「利用者ニーズの変化への対応(18.4%)」に意見が集中した。

### <事業所から寄せられたコメント>

- 「マスコミは景気回復と伝えているが、全く実感が無い」(塗装業)
- 「従業員の高齢化が進んでいるため、若手技術者の育成が当面の課題」(スレート工事業)
- 「材料の仕入価格が上昇し、工事を受注しても採算が取れない」(一般土木建築工事業)
- 「原油価格の高騰が続き、経費が増大している」(精穀・製粉業)
- 「他社との競争が激化しているため、受注しても利益を生むのは困難」(鋳造業)
- 「熟練従業員の確保難」(玩具・運動用具製造業)
- 「原油価格の高騰に伴い主要原材料価格が急上昇し、採算が取れない」(ゴム製品製造業)
- 「消費の停滞が続いており、景気回復の実感がまるで湧かない」(水産食料品製造業)
- 「仕入価格上昇により、需要が停滞している中、ますます厳しい状況に追い込まれている」(建築材料卸売)
- 「需要の停滞が続き、引き続き努力が必要」(飲料・食料卸売)
- 「仕入単価の上昇が続き、販売単価は低下・上昇難であるため、今後の先行きが見えない厳しい状況」(化学薬品卸売)
- 「購買力の他地域への流出が続き、更なる自助努力が必要」(婦人・子供服小売)
- 「地代家賃が高いためか、中心部商店街の空洞化が目立つ」(医薬品・化粧品小売)
- 「郊外大型店の影響で毎年売上が下降している」(洋品雑貨等小売)
- 「駐車違反取締りの強化に伴い、来店者への影響が不安」(書籍・文房具小売業)
- 「インターネットでのダウンロードが急増しているため売上が大幅に減少している」(楽器等小売業)
- 「中心部商店街の来街者減に歯止めがかからない」(駐車場業)
- 「原油価格が高騰する一方、販売価格は上げられず採算が取れない」(クリーニング業)
- 「新規参入業者が増加し、他社との差別化を図ることが急務」(派遣業)
- 「日銀のゼロ金利政策解除に伴う金利負担増の影響が心配」(その他物品賃貸業)